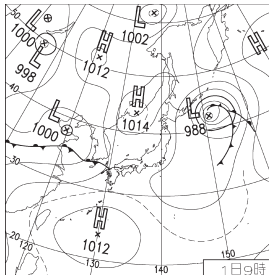


日々の天気図

— No. 66

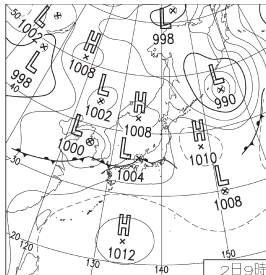
2007年7月

- ・2日～12日、前線停滞の影響で九州各地で大雨。総雨量は熊本県西原村975mm、鹿児島県垂水市810mm、大分県日田市椿ヶ森801mmなど。
- ・13日～17日、前線と台風4号の影響で各地で大雨。総雨量は高知県仁淀川町637mm、徳島県那賀町606mm、宮崎県美里町神門528mmなど。
(気象庁予報部予報課)



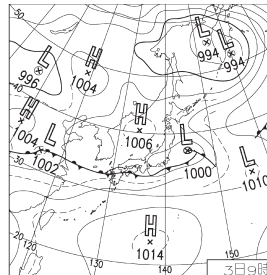
1日(日)富士山開き

沿海州の高気圧は、ほぼ停滞。一方、梅雨前線が九州北部にのびる。本州は曇りの所が多く所々で弱い雨。九州南部では気温が上がり、宮崎県高鍋で35.2℃の猛暑日。



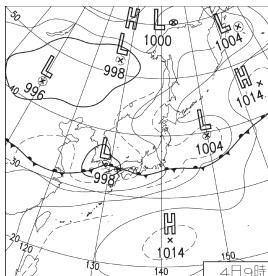
2日(月)九州北部大雨

梅雨前線が日本付近に停滞し活発化。東日本と西日本の所々で雨。九州北部は断続的に非常に激しい雨。佐賀県白石町で71.5mm/1h、大分県中津市耶馬溪で226.5mm/日。



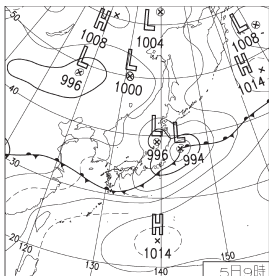
3日(火)九州南部大雨

梅雨前線が本州南岸に停滞し九州南部で前線活動活発化。宮崎・鹿児島県等で非常に激しい雨を観測。鹿児島県鹿屋市寿で78mm/1h、同枕崎市で146mm/3h。



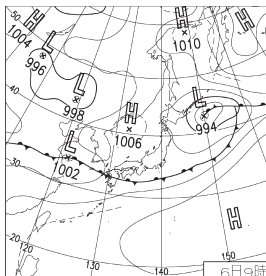
4日(水)台風第3号発生

梅雨前線上の低気圧が本州上を東進。九州北部の大分県豊後大野市温見57mm/1h、由布市湯布院53mm/1h等の非常に激しい雨を観測。広い範囲で100mm/24hを超える大雨。



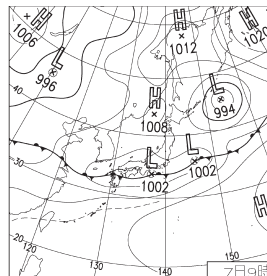
5日(木)久々の晴れ間

梅雨前線は一時的に南下し、東日本から西日本の一部で晴れ間。東北地方は日本海と三陸沖の低気圧の影響で雨。沖縄県石垣市登野城の朝の最低気温は29.1℃。



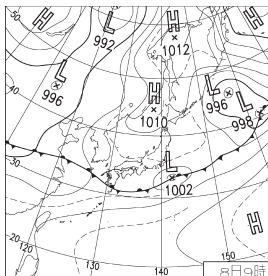
6日(金)再び九州で大雨

前線活動、再び活発化。熊本県八代市大釜で85mm/1hの猛烈な雨。同甲佐町で163mm/3hと観測史上1位を更新。熊本県や大分県を中心に土砂災害や洪水災害が続出。



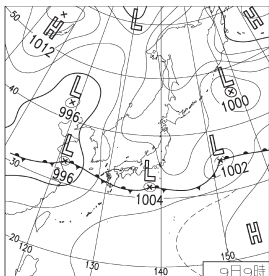
7日(土)九州や八丈島で大雨

梅雨前線が九州から本州南岸に停滞。熊本県八代市平山新町で76.5mm/1hの非常に激しい雨。熊本県では1万人に避難勧告。日本海の高気圧に覆われた北日本は概ね晴れ。



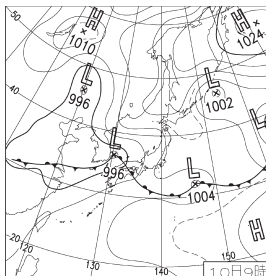
8日(日)屋久島で激しい雨

北日本は、北海道の一部で曇の他は概ね晴れ。関東は海上からの北東の風の影響で曇。九州や四国は梅雨前線の影響で雨。南西諸島は晴れ。秋田市で平年比7日早いヒグラシ初鳴。



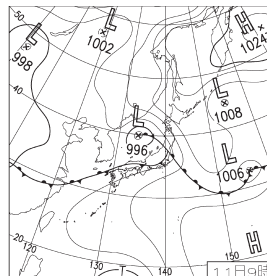
9日(月)九州引き続き大雨

梅雨前線は西から北上し西日本は次第に雨。九州北部は夜所々で激しい雨。北海道はオホーツク海高気圧の影響で所々霧雨。マリアナ諸島で台風第4号発生。



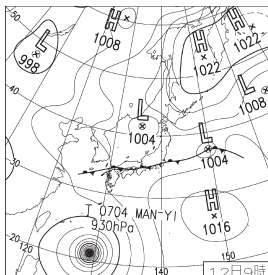
10日(火)西～東日本で大雨

梅雨前線が北上。九州から関東・北陸の広い範囲で雨。特に九州・四国・紀伊半島で雨強く、各地で河川の増水や土砂災害発生。南西諸島は高気圧に覆われ晴れ。



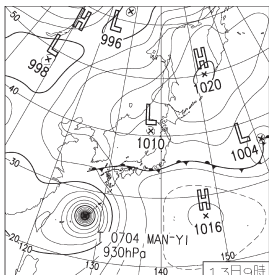
11日(水)九州で激しい雨

梅雨前線は東日本から西日本にのび、九州で活動が活発化。発達した積乱雲のかかった鹿児島県南大隅町佐多107mm/1h。台風第4号は発達しながら北上。



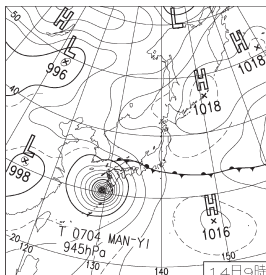
12日(木)近畿、東海で大雨

梅雨前線は関東の沿岸部から西日本にのびる。北日本から西日本にかけて曇りや雨。近畿、東海は大雨。京都市花背峠では70.5mm/1hの非常に激しい雨、観測史上1位を更新。



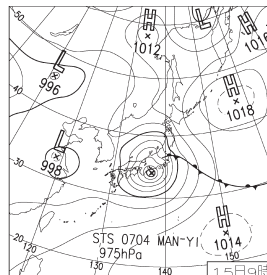
13日(金)暴風と大雨

台風第4号は沖縄本島付近を北上。沖縄県や鹿児島県で最大瞬間風速が50m/sを超える。那覇市で東南東56.3m/s、宮崎県西都市で84.5mm/1h、日向市で84mm/1hの猛烈な雨。



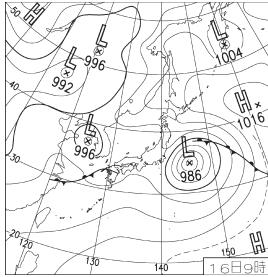
14日(土)台風第4号接近

台風は大隅半島に上陸。九州・四国は非常に激しい雨。宮崎県日南市油津で最大瞬間風速55.9m/s(観測史上1位を更新)。梅雨前線の活動も活発化し、千葉県勝浦市で104.5mm/1h。

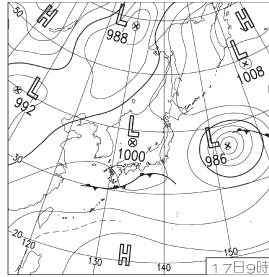


15日(日)台風第4号東海上へ

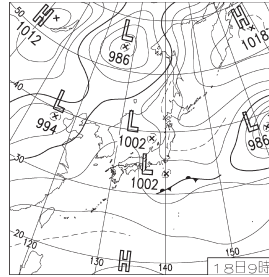
台風第4号は潮岬付近から伊豆諸島神津島付近を通過し東海上へ。茨城県高萩市大能で59mm/1h、福島県吾妻山で276.5mm/日、東京都八丈島町西見で最大瞬間風速40.3m/s。



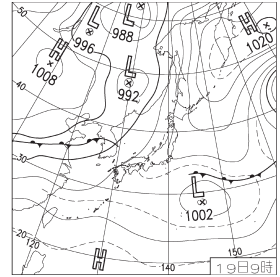
16日(月) 柏崎市などで震度6強
新潟県中越沖地震と命名。本震(M6.8)発生後も大きな余震続く。台風一過の晴れは東の間。全国的に曇りの所が多く、上空に寒気の入った中国地方は雷雨。



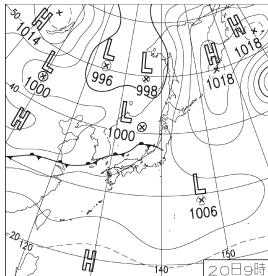
17日(火) 関東地方は梅雨寒
上空に寒気を伴った低気圧の影響で全般に曇りか雨。中越沖地震の被災地周辺でも降雨。新潟・長野両地方気象台は被災地の大雨・洪水に関する注意報・警報の基準を下げて運用。



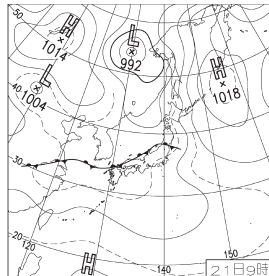
18日(水) 九州南部梅雨明け発表
北海道や九州は概ね晴れ。東北、東日本、近畿、中国、四国は概ね曇りや一部で弱い雨。南西諸島は、発達した積乱雲の影響で激しい雨。



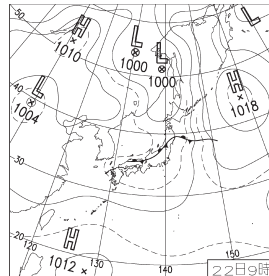
19日(木) やませとフェーン
オホーツク海高気圧からの北東風により北～東日本の太平洋側は曇りや弱い雨。日本海側ではフェーン現象により昇温し所々で真夏日。中越沖地震の被災地も午前中を中心に晴れ。



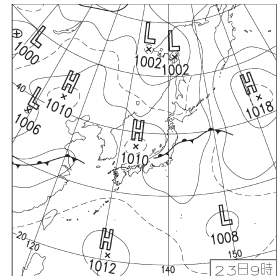
20日(金) 梅雨前線停滞
日本海の低気圧と前線の影響で日本海側を中心に雨。夜には四国や紀伊半島も激しく降る。愛媛県西予市で58 mm/1h、南西諸島や関東の沿岸部は晴れ。



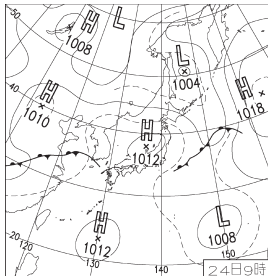
21日(土) 梅雨前線弱まる
梅雨前線の活動弱まる。北海道は海上からの南風の影響で一部で雨。暖かく湿った気流の入った高知県室戸岬で47 mm/1hの降水。沖縄県と那国島町祖瀬で35.0°Cの猛暑日。



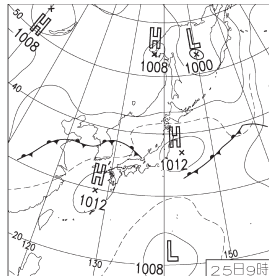
22日(日) 九州南部 猛暑日
北日本や東海地方で晴れた所もあるが、梅雨前線の影響で全国的に概ね曇りや雨。九州南部では気温上がり所々で猛暑日。宮崎県高鍋町36.7°C、宮崎空港36.5°C。



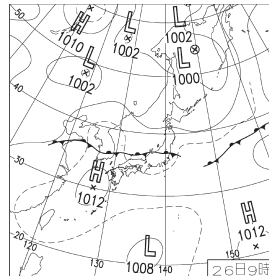
23日(月) 西日本で梅雨明け発表
九州北部、西国、中国で平年より3～6日遅い梅雨明け発表。九州南部は連日の猛暑で、宮崎県西米良村で36.4°C。福島市で平年より6日遅くヒゲラシ初鳴。



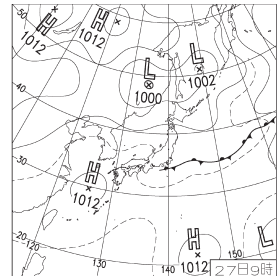
24日(火) 近畿で梅雨明け発表
日本付近は引き続き梅雨前線の活動が弱く、東海の一部で曇りや弱い雨となった他は全国的に晴れ。北海道東部は所々霧。鹿児島市東郡元町で35.6°Cなど西日本の所々で猛暑日。



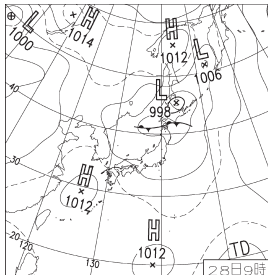
25日(水) 中越沖地震被災地に雨
日本海の前線が接近し北陸は午後から雨。日中は全般に晴れの所が多いが、沖縄～近畿は大気の状態不安定で所々雨。鹿児島市東郡元町36.1°Cをはじめ九州南部中心に猛暑日。



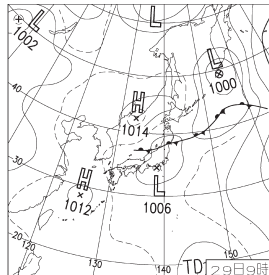
26日(木) 九州で猛暑日続く
梅雨前線が北陸地方から関東地方北部にかり北陸と関東甲信は雨。九州の西に居座る高気圧により西日本は晴れ。宮崎県西米良村36.9°Cなど九州各地で猛暑日。



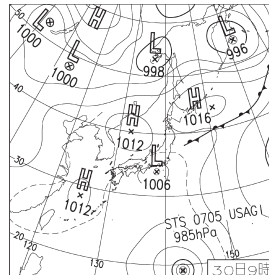
27日(金) 東海で梅雨明け発表
梅雨前線が弱まり、西日本から東日本は晴れ。宮崎県西米良村で37.3°Cなど九州を中心に西日本で猛暑日。関東地方でも群馬県伊勢崎市で35.2°Cを観測し今年初の猛暑日。



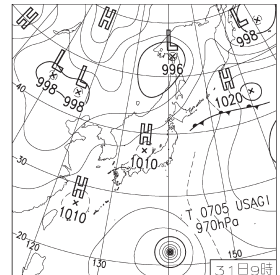
28日(土) 北海道、非常に激しい雨
北日本を低気圧と前線が通過し、北海道の所々で非常に激しい雨。渡島支庁七飯町61 mm/1h。関東以西は気温が上がり連日の猛暑、高知県本山町38.1°C。



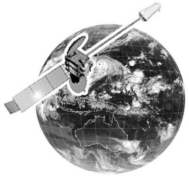
29日(日) 台風第5号発生
本州付近は大気の状態が不安定。東日本～東北は群馬県桐生市黒保根で66 mm/1hなど雷を伴った非常に激しい雨。西日本は宮崎県西米良村で36.5°Cなど引き続き各地で猛暑日。



30日(月) 東日本で大雨
本州は引き続き大気の状態が不安定。関東甲信や東海を中心に雷雨。長野県飯田市南信濃81 mm/1h。北海道や西日本は概ね晴れ。最高気温は関東甲信中心に平年より4～10°C低い。

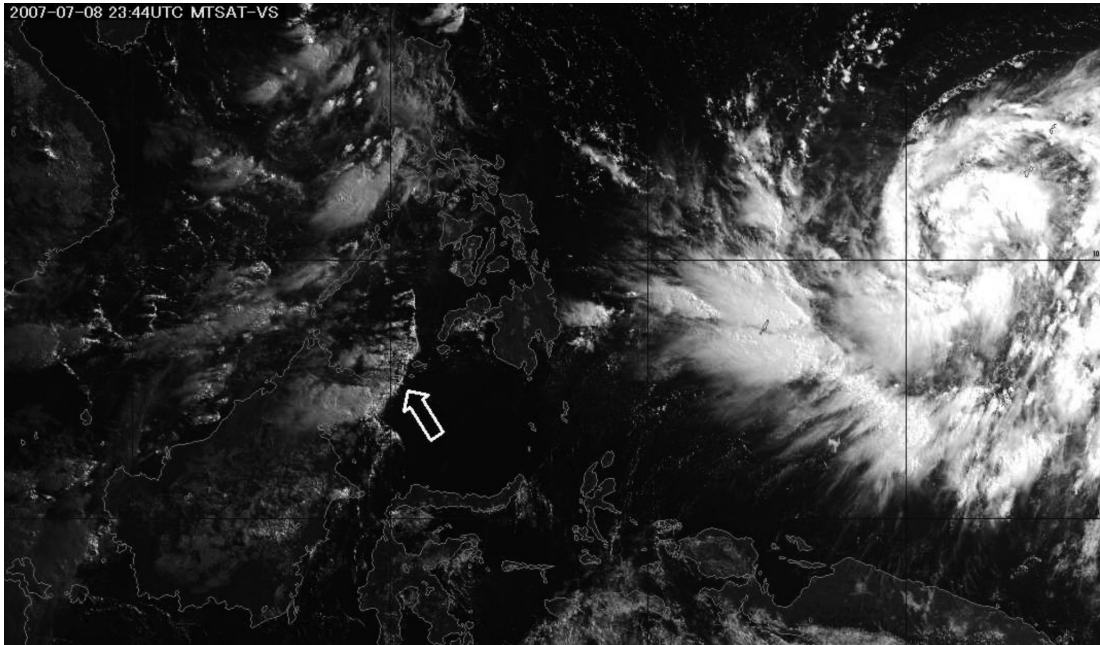


31日(火) 鹿児島連日の猛暑日
不安定をもたらした上空の寒気は三陸沖に抜け、天気は安定化。関東地方の沿岸部は、海上からの冷たい空気が入り込み概ね曇り。日中は西日本中心に概ね曇れ。



今月のひまわり画像—2007年7月

南シナ海を東進する下層雲列と台風第4号



2007年7月9日9時の可視画像

衛星画像で台風の発生を監視していると、ときどき面白い形の雲域を見かける。写真は台風第4号が発生した7月9日9時の可視画像である。このときフィリピンのミンダナオ島の西海上（白抜き矢印）と南シナ海に、6月にはほとんど見られなかった東北東進する下層雲列が発生した。このような弧状の東進する下層雲列は、例年、台風シーズンになると南シナ海でしばしば見ることができる。この雲列は南半球から赤道を時計回りに越えて吹く、南西モンスーンが強化されているとき発生しやすいように見える。南西モンスーンが強化されるときには、台風が発生しやすいので、写真のように、この雲列と発生期の台風が共存すること

があるのかもしれない。

台風第4号は写真の右端に見られるように大きな雲域を伴い、大型で強い勢力を維持したまま7月14日鹿児島県に上陸し、このとき7月に上陸した台風としては最も低い中心気圧945 hPaを記録した。そのため一気に本格的な台風シーズンの開始かと思いきや、7月16日に第4号が消滅した後は、前述した下層雲列は見られなくなった。7月の終わりに下層雲列はまた明瞭化し第5号が発生したが、7月の台風発生数は3個と平年値4.1個を下回った。

(気象庁予報部予報課 菊池明弘)